

暦の神々と民俗

【概要】

暦をめぐる民俗としては、動植物をはじめとする自然の観察から季節の進行を看取する自然暦が知られている。しかし、実際の生活においては、文字の塊である略本暦が生活のなかに浸透していることに注意すべきであろう。今回、江戸時代までの暦の記載と民俗事象とのかかわりを神仏の祭りに焦点をあてて取り上げ、考察してみたい。そこには暦と人びととの接点が投影されている。



江戸時代の暦のおもかげを残すお化け暦

日時

令和5年 12月3日(日)

午後 1:30～ [講演後『2024年暦予報』を発表。午後 3:30 終了予定]

講師



国立歴史民俗博物館 教授 小池 淳一 氏 Koike Junich

筑波大学大学院博士課程単位取得。博士(文学)。弘前大学、愛知県立大学を経て、2011年より現職。専門は民俗学・伝承史。主な著書に『伝承歳時記』(2006年、飯塚書店)、『陰陽道の歴史民俗学的研究』(2011年、角川学芸出版)、『季節のなかの神々』(2015年、春秋社)、『新陰陽道叢書(4) 民俗・説話』(編、2021年、名著出版)など。

聴講
無料

リモート配信にて開催

参加・閲覧方法や詳細は暦文協のホームページにて。

ZoomのIDとPASSは11月下旬に公開されます。

<https://www.rekibunkyo.or.jp>

12月3日は「カレンダーの日」

明治5年(1872)11月9日、宮中において改暦式が行われ、大勢の役人が参席する中、明治天皇は大臣を従えて便殿に出御し、伊勢神宮を遥拝して祝詞を読んで事の由を告げられました。政府は、明治天皇の詔書と太政官布告を発して『来る12月3日を以て明治6年1月1日とし太陽暦を実施する』と発表。長い間、太陰太陽暦で生活していた国民にとって、突然の改暦は大変大きな衝撃でした。しかしその結果、太陽暦を採用する諸外国と足並みを揃えることになり、日本は文明開化の道を歩み始めました。

この史実に基づき昭和63年(1988)に、全国団扇扇子カレンダー協議会、並びに全国カレンダー出版協同組合連合会によって12月3日は「カレンダーの日」と定められました。

主催



一般社団法人
日本カレンダー暦文化振興協会
Japan Association for Calendars and Culture Promotion

お問合せ 事務局

〒110-0016

東京都台東区台東 1-27-11 佐藤第2ビル 204号

TEI 03-5816-5066 FAX 03-5816-5036